

図・書・紹・介

・当センター「図書コーナー」にある本を紹介しています。  
 【貸出しのお約束】・1人5冊まで ・期限：2週間 ・利用時間：9時～17時



『女友たちの賞味期限』  
 ジェニー・オフィル&エリッサ・シャッペル 編著 / プレジデント社 1,500円(税別)  
 ◆女同士の友情は壊れやすいのか？長年の友に去られた側、去った側の女性たちが、その当時の出来事を回想し丁寧に吐露しています。ノンフィクション実話集。



『タラブという快刀』  
 信田さよ子 / 梧桐書院 1,400円(税別)  
 ◆タラブとは、「手放す愛」ということ。相手を見放すのではなく、相手の力を信じて、離れたところから見守る愛です。家族愛、夫婦愛に縛られない心を楽しむ生き方を著者が語ります。



『この世でいちばん大事なカネの話』  
 西原理恵子 / ユーメッド 752円(税別)  
 ◆著者の「お金」にまつわる自伝のような打ち明け話。貧しかった生い立ちから社会を生き抜く術を見出すまでを語っています。サイバラ流にホンネを余すところなく述べていて、元気が出る本です。



図書コーナーをご利用ください

●交流コーナーでは、読書や少人数の打合せなどでご利用いただけます。お気軽にお立ち寄りください。 ●男女共同参画に関するデータや、県内の女性団体による活動発表の展示もあります。ぜひご覧ください。

ひとりで悩まないで... 気軽に相談を...



女性専用電話相談です。相談は無料で秘密は厳守します。

とらいあんぐるん相談室

電話 027-224-5210

●相談日と時間

	火	水	木	金	土	日
9:00～12:00	○	○	○	○	○	○
13:00～16:00	○	○	○	○	-	-

・年末年始(12/29～1/3)、祝日は休み ・月曜日が祝日の場合、火曜日も休み

【相談内容】家庭の問題の他、女性の自立や能力の発揮、性差に関する悩みなど...

センターのご案内



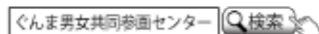
●お車で越しの際は、県庁内「県民駐車場」をご利用ください。

- 開館時間：火～金 9:00～21:00 土・日・祝 9:00～17:00
- 休館日：月曜日(月曜日が祝日の場合は直後の平日) 12月29日～1月3日

〒371-0026 群馬県前橋市大手町1-13-12

電話 027-224-2211 FAX 027-224-2214

メール sankakuse@pref.gunma.lg.jp



●編●集●後●記●



今回のインタビューは太田市消防本部西部消防署の一室をお借りして行いました。女性職員は市根井さんだけで、女性の少ない職場ということをあらためて感じました。頭に浮かんだのは「紅一点じゃ、足りない。」これは、25年度の男女共同参画週間のキャッチフレーズで「女性が様々な分野で活躍することにより、日本が元気になることが伝わるようなもの」と募集され、選ばれたものです。市根井さんの活躍に元気をいただく方も多しはす。センターも応援しています。

ところで、このページ上部にあるようにセンターには図書コーナーがあり、貸出しも行っていきます。これを読んでいただいている頃は、読書の秋は終わり、空っ風が吹いていると思いますが、ぜひセンターに足を運んでください。お待ちしております。(理)

とらいあんぐるん

ぐんま男女共同参画センター通信

2015年12月 No.38

～男女共同参画社会の実現を目指し活躍する人たち～

企画 インタビューコーナー 第13回

太田市消防本部西部消防署 消防士長 市根井裕美さんに聞く

消防車に乗っているママが好き！  
 子どもの言葉が私の勇気  
 夢を叶えるのに性別は関係ありません



ぐんま男女共同参画センター  
 〒371-0026 群馬県前橋市大手町1-13-12  
 TEL: 027-224-2211  
 FAX: 027-224-2214  
 メール: sankakuse@pref.gunma.lg.jp



市根井裕美さん

消防士をめざしたきっかけ

スポーツクラブでアルバイトをしていたときに消防職員の方と話をする機会がありました。男性職員ばかりと思っていた消防の世界に女性職員がいることを聞いて、私の中で「私もやってみたい」「消防車に乗ってみたい」と思ったのがきっかけです。ただ、両親にも言えず、密かに勉強を進めていきました。

場で、消防車に乗りたいという希望をなかなか口にできず、気持ちがいちいち落ちていたのですが、福島県の女性職員が警防で活躍していることを知り、勇気をいただきました。それからは、いろいろな方に消防車に乗って活動したいことを伝え、4年目に念願かなって尾島分署の警防係に配属となりました。でも、消火活動をしている先輩の補助的な活動が多く、気持ちの落ち込みもありました。上

た2年間でした。子育てとの両立は大変でしたが、主人と両親のサポートのおかげで続けることができました。くじけそうなくもありませんでしたが、子どもに元気をもらって頑張ることができました。家族と支えてくれた周りの人たちに感謝しています。

消防車までの遠い道のり

無事に採用試験に受かったものの、配属先は財務課や総務課、なかなか消防車には乗れませんでしたが、全国的に女性の救急隊員は増えてきていましたが、警防隊員(消防車に乗って活動する隊員)は、まだ人数の少ない時期でした。男性に囲まれた職



司は、ケガを心配していました。初めは、ケガを心配していましたが、初めの女性警防隊員だったので、今思うと、周りも試行錯誤だったのだと思います。

自分を知ってもらうために

女性というだけで、スタート地点に立てない、女性であるがために、うまくいかないと思うことがありました。できることもさせてもらえなかったこともあります。一緒に活動している人の理解は得られましたが、全員に自分のことを知ってもらうことは難しく、まだ、時間がかかっていると思います。でも、希望を叶えるために頑張っていれば、見ていてくれる人は必ずいます。その人がきっかけで希望が叶ったりします。自分の想いを言葉にすることが大事です。女性でも、母親になっても頑張っている人がいると分かってもらえるとうれしいです。

家族の支えがあったから

九合(くあい)分署に配属となったときは、出勤も多く、いろいろな経験をさせていただきました。怒られっぱなしでつらいこともありましたが、男性職員と平等に扱ってもらえることがうれしかったです。めまぐるしい反面、自分の希望が叶った充実し



インタビューコーナーでは、「男女共同参画の実現を目指し、さまざまな立場で活躍している人」を紹介します。